

議会報告会での意見・要望等 《学生との意見交換分》

【分類1相当であり、類似のものは集約】

本市議会では若者の意見を市政に反映できるよう、令和3年度から市内の高等学校、有明工業高等専門学校、帝京大学の学生と意見交換を重ねてきました。

その中で、有明高専及び帝京大学の学生からは、専門性や経験、知識に加え、学校が有する研究力、ノウハウ、機材等、有形無形の知的財産を大牟田市や市民のために有意義に活用したいといった多くの御意見をいただきました。

また、市内の高校からも、地域との交流や情報発信の充実、移住・定住政策や子育て政策への注力など、本市が若者にとって住みたいまちへの発展に資する多くの意見をいただいているところです。

このような中、令和4年度の意見交換会において、委員会として市長等へ要望及び提案を行うこととする意見は、次のとおりです。

○専門性・技術力を生かしたまちづくり

市内の高等学校や高専、大学が持つ知識・経験・能力を生かす観点から、市・地域・学校・企業とが連携・交流し、市民の健康づくりやまちのにぎわいづくりを進められたい。

～上記の意見・要望を取りまとめるに至った主な意見については以下のとおり～

【有明工業高等専門学校】

- ・地域の人と学生とが一緒に行うストリートファニチャー（街路ベンチ等）づくりを提案する。人が回遊できるまちづくりを目指すためには滞留できる場所も必要。大牟田駅西口はベンチもあり、路面電車が置かれて楽しい空間になってきているが、東口は待つ場所が少ない。そこで、高専が保有する特色ある機械を活用し、地域の人と一緒に製作することで、親しみや思い出、愛着などを生み出すことがねらい。

【帝京大学】

- ・大学にいる約3年半の中で大牟田市民との関わりが少ないと感じた。理学療学科の学生として、高齢者の方と一緒に、対面でよかば〜い体操を行う機会があるとよい。また、その際にクイズを出すなど、認知機能に効く活動も併せてできたらよい。
- ・地域の医療施設と企業が連携をもっと増やせばここで学んで地元に残ることができるのではないか。共同イベントを持つことでつながりや交流も広がる。臨床工学コースは、手術機器や人工透析などを学ぶコースで、多くの学生が久留米市など市外に就職している。

【市内高等学校】

- ・ボランティアの気持ちは大切であり交流にもつながるので、学校だけではなく地域と一緒に活動できる場を増やしてほしい。

上記の分類1については、その趣旨をまとめ、議会の総意として市長に対して取り組むよう要望しています。

その結果につきましては、このホームページ等でお知らせする予定です。